

# ひまわりナースステーション

## 認知症と難聴について

難聴には、高音性と低音性がありますが、高齢者に多いのは高音性難聴といわれています

難聴になると、認知症のリスクが高くなります

また、難聴を放置した場合、認知症を発症するリスクは

軽度の難聴・・・2倍

中度の難聴・・・3倍

重度の難聴・・・5倍

と、健聴者に比べて非常に高くなる事がわかっています

### 認知症と難聴の関係は？

音や、声などの聴覚刺激が入らなくなる



コミュニケーションが困難になる

危険の察知・周辺環境の把握がし辛くなる



社会との交流や参加が減る



認知機能への影響が生じる

難聴になると、直ぐに認知症になるわけではありません。難聴により、コミュニケーションが少なくなったり、社会との関わりが減る事で認知機能に影響が出る可能性があります

聴覚はコミュニケーションをする上でとても大切です

耳で言葉を聞く → 脳で思考する → 口から言葉を発する



大音量でテレビを見たり音楽を聴くという生活は、難聴を促進させます

補聴器を使う事も脳に音を届ける一つの方法です

耳鼻科の受診は必須ではありませんが、難聴の中には、例えば耳垢詰まりや、中耳炎、神経性のものがあり、治療で治る場合があります。補聴器が必要か判断もしてもらえます

予防する事で、毎日を楽しく過ごしましょう